



ふ れ あ い
市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

緊急事態！～新型コロナウイルス感染予防行動の徹底を～

兵庫県を含む7府県が再び緊急事態宣言の対象区域に追加され、酒類を提供する飲食店等へは休業要請が、それ以外の施設には20時までの営業時間短縮要請が行われています。

8月の新型コロナウイルス感染症の拡大の状況は、これまで以上に危機的なものになりました。兵庫県では1日あたりの新規感染者数が8月18日に過去最多の1,088人となり、淡路島内でも複数箇所ですらクラスターが発生、連日10人を超える新規感染者が確認されました。従来、島内で感染が確認された事例の多くは、島外からの帰省や都市部との往来に関係したものでしたが、現在は家庭内感染が急増するとともに、特に若い世代を中心に、友人との会食、マスク無しの会話など、ハイリスクな行動を通じての感染が目立っています。短期間に多数の患者が発生し、県立淡路医療センターの対応病床が満床となるなど、医療も危機的な状況となっています。淡路島内で検出されるウイルスのほとんどは、従来株より感染力・病原性も非常に強い

デルタ株であり、今後も、日常の場を通じた感染が拡大していく可能性があります。これまで以上に、マスクの着用や手洗い、手指の消毒、毎日の検温などを行うとともに、密閉・密集・密接の3密を避け「0密」をめざした感染予防行動を徹底していただきますようお願いします。また、感染拡大地域との往来は徹底して避けていただくとともに、大人数・長時間の会食も、自粛をお願いします。

本市では、8月19日から、35～44歳の方および12～15歳の基礎疾患を有する方を対象にワクチン接種予約を開始しました。一般の34歳以下の方の予約についても、準備が出来次第ご案内させていただいているところです。65歳以上の方と比較して50歳代以下の世代の予約率は低い傾向にあります。予約の案内が届いている方で、接種を希望される方は、お早めに予約をお願いします。また集団接種では、市医師会・歯科医師会の全面的なご協力をいただいています。心から感謝申し上げます。

気候変動によるゲリラ豪雨など大雨による土砂災害などが全国的に頻発しています。先月も本市において大雨警報(土砂災害)が発表され、土砂崩れも発生し、一部避難所を開設しました。市民の皆さまにおかれましては、市から配布させていただいているハザードマップで危険箇所をご確認いただくなど(市ホームページでもご覧いただけます)、自然災害にも常日頃から備えていただきますようお願いします。

以上、厳しいお話ばかりになりましたが、嵐の後には晴れる日がきます。その時まで、力を合わせて乗り切りましょう。

大学連携推進協議会を開催

「令和3年度南あわじ市大学連携推進協議会」が8月5日、吉備国際大学志知キャンパス大講義室で開催されました。

同協議会は、市内の大学等高等教育機関と総合的かつ包括的に連携を図り、6次産業化の推進や地域連携を促進するために設置されています。

この日の会議では、相野学部長から農学部の現在



の状況と今後の方針について、醸造学科4年の大林さんから「イネにおける赤かび病菌の感染リスクについて・毎日食べているご飯は本当に安全なのか」と題して研究発表がありました。

昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、大学の活動としても制限を余儀なくされましたが、今年度は感染症予防対策を講じたうえで市民の皆さまにご参加いただけるイベントの実施を検討していますので、日程が決まり次第、随時お知らせします。



国際ソロプチミスト淡路のメンバーから絵本を受け取る守本市長と仲山教育次長

国際ソロプチミスト淡路から
学童保育所などへ絵本寄贈

8月10日に、国際ソロプチミスト淡路が発足35周年を記念し、市内13カ所の学童保育所およびアフタースクールへ絵本を寄贈しました。子どもたちが豊かな感性を養うことを願って寄贈された絵本は、147冊(約20万円相当分)。学童などを利用しての子どもたちの希望が反映されています。

同日に市役所で贈呈式があり、同団体の正本日登美会長から守本市長へ目録が手渡されました。絵本を受け取った守本市長は「本と触れ合い、読書する楽しさを感じてもらうことで読解力の向上にもつながる。『学ぶ楽しさ日本一』を掲げる当市にとってはありがたい贈り物です」と感謝しました。



画面越しに握手を交わす宮城教育大学の村松学長(右)と守本市長

防災教育で相互に協力
宮城教育大学と協定締結

南あわじ市と宮城教育大学は7月20日、学校防災教育研究の充実と持続可能な地域づくりに関する連携協定を締結しました。市と同校が連携・協力する事項は、教員の防災研修、児童・生徒・学生の防災教育、教育研究など。市や宮城県で蓄積されている経験に基づいた防災教育のノウハウを共有・活用することに

より、県域を越えた教育連携や災害時のパートナーシップが期待されます。同日、市役所と同校をオンラインでつなぎ、締結式が行われました。同校の村松学長と守本市長が協定書に署名。村松学長は「災害に対するそれぞれの教訓を共有し、防災教育の質の向上を図りたい」と話しました。

恒久平和を祈って
戦没学徒追悼献花式を挙行

終戦の日の8月15日、若人の広場公園で市主催の戦没学徒追悼献花式が行われました。式典には行政関係者のほか、市遺族会や各種団体の関係者ら約30人が参列。先の大戦で散華された約20万人の学徒に黙祷を捧げた後、白菊を献花台に供え、戦没学徒の追悼と平和への誓いを新たにしました。市遺族会の川上英夫会長は「戦争を知らない世代が

社会の大半となりました。戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継ぐことが遺族会の使命です」と追悼の言葉を述べました。同日の夜には、戦没者を追悼し、恒久平和を祈る「萬灯会」が開催されました。法要の後、同公園の記念塔の前で燃え続ける「永遠の灯」から分けた火が灯籠に灯され、広場には「平和」の文字が浮かび上がりました。



(上)戦没学徒を悼み、黙祷する参列者(右)若人の広場公園に浮かび上がった「平和」の文字